

令和8年度

福井小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「進取」の姿勢で子どもと向き合い、協働と効率化を図り教育の質を高める。
- デジタル教材やICTを活用した、個別最適な学習の提供

校長

鶴本 正道

学力向上推進員

教頭 宮本 和美 低学年推進員 三間 由美
中学年推進員 久米 灯 高学年推進員 田村聡太郎

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

授業研究会を中心に教員が相互に授業参観し合い、アドバイスし合って、指導方法の改善点や効果を検証し取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○発問や課題に素直に向き合い、考えることができる。 ○日々の授業や家庭学習に真面目に取り組んでいる。 ●文章を書くこと、漢字を正しく覚えることに課題がある。 ●基礎的な計算力に課題があり、特に分数が苦手な児童が多い。	・漢字や計算などの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・豊富な語彙で話す・書くことができる。 ・学習の過程で身に付けた知識を、既習の知識と関連付けたり他の学習や生活に生かしたりすることができる。	・朝活や家庭学習を中心に、反復学習をすることで漢字の習得や計算力の向上を図る。 ・こども新聞を有効に活用できるよう、発達段階に応じた手本を示し、読解力の向上や要約のトレーニングを図る。 ・算数的な活動を日頃の学級での活動でも取り入れることで、児童の算数力の向上を目指す。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○帰りの会のスピーチや授業中の発問や課題に対して、自分なりの方法で応えて表現しようとする。 ○タブレットの使用に慣れ、自分の意見や考えを伝えるための意思表示のツールとして学習に活用することができている。 ●問題文を読解することが難しいため、答えまでの過程や立式が立てられない。 ●自分の考えを文章に表すときに悩んだり戸惑ったりする児童が多い。	・話し合い活動や発表を通して、友達への意図を捉えながら聞き、自分の考えを見直したり膨らませたりする。 ・自ら課題を見つけ、その解決に向けた方法を考え、他者と協働し、必要な過程を計画・実行しながら解決まで導くことができる。	・話し合い活動や、意見交換の機会を設けることで、自分の考えを深められるようにする。 ・ICT機器や思考ツールを活用することで、児童の思考を整理したり膨らませたりできるよう工夫する。 ・多様な出題形式に慣れさせ、スムーズに解答を出せるように学習内容や授業づくりを工夫する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書が好きで、読書習慣が身に付いている児童が多い。 ○体験的な活動を好み、意欲的に取り組むことができる。 ●家庭学習や自主学習が身に付いている児童もいるが、学年差や個人差が大きい。 ●集中力が続かなかったり、家庭での読書ができていなかったりする児童が多い。	・学習に粘り強く取り組むとともに、自らの活動を振り返って、学習の成果や課題を自分の生活や学習につなげることができる。 ・課題解決の体験を積み、分かる楽しさを体験し、学習に意欲や自信をもつことができる。 ・自主学習に励み、自分の課題に気づき、復習し、学力の向上に主体的に取り組むことができる。	・体験的な活動を学習に積極的に取り入れ、児童が意欲的に学習できるよう工夫する。 ・学習のゴールを明確にすることで、児童が見通しをもって自主的に学習を進められるようにする。 ・ICT機器を有効に活用し、個別最適な学習を提示することで学力の向上を図る。 ・スモールステップのハードルを少しずつ上げたり、学習で学んだことを日常生活に生かしたりして、児童が主体的に学べるよう働きかけを工夫する。			